שבועות
シャブオット

知っておきたいキリスト教のことば （153）

七週祭 ななしゅうさい

イスラエルには三大祭というものがあり、その際に成人男性は祭に参加するために、エルサレム神殿に行かなければなりませんでした。「年に三度、男子はすべて、主なるイスラエルの神、主の御前に出ねばならない。（出エジプト記 34 章 23 節）」と定められている通りです。

その三つの祭とは、除酵祭（過越祭）、七週祭、仮庵祭です。過越祭と除酵祭は元々別の祭だったものが、どちらも種なしパンを食するものであることから併合したと考えられています。

さて七週祭は、穀物に鎌を入れた時から七週目に祝います。鎌を入れるのは過越祭の二日目ですから、過越祭の 50 日目ということになります。聖書では、様々な意味をもちます。

旧約聖書のルツ記には、ボアズとルツが出会う場面が描かれています。ルツはボアズの畑で落穂拾いをしているので、おそらく二人が出会った時期は、この七週祭あたりだろうと考えられます。ユダヤ人ボアズと異邦人（外国人）ルツが出会い、その子孫にエッサイ、ダビデ、そしてイエス様が誕生していきました。

そして新約聖書の中には、「五旬祭」の出来事が描かれます。五旬祭は過越祭から 50 日後の祭りですから、七週祭と同一です。その日の出来事が、こう記されています。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。（使徒言行録 2 章 1～2 節）

これは聖霊降臨の記述です。ユダヤ人も異邦人もなく、すべての人を救いに導く聖霊の働きによって教会ができた日が、七週祭（五旬祭）でした。ルツとボアズの出会いとリンクするようです。

次回は「肉」です。お楽しみに。

「落穂拾い」
ジャン＝フランソワ・ミレー
（1814～1875 年）

男子はすべて、年に三度、すなわち除酵祭、七週祭、仮庵祭に、あなたの神、主の御前、主の選ばれる場所に出ねばならない。ただし、何も持たずに主の御前に出てはならない。

（申命記 16 章 16 節）